

海を渡った鎌倉のユリ

明治・大正期のユリ球根の栽培と輸出

あなたの家の庭には、植えていないユリの花が突然咲いたりしませんか？

今回はそのユリのご先祖様かも知れない、鎌倉のユリと世界に輸出された球根についてのお話です。

実は明治・大正時代、鎌倉では大規模なユリの球根栽培が行われ、そのほとんどが欧米に輸出されていました。そして、周辺の農家と協力してユリの輸出に精魂を傾けた角田助太郎氏や、その貿易を栽培技術の面から支え続けたフラワーセンター（旧・農事試験場）の心躍る物語がありました。こうした栽培の技術は鎌倉野菜にもつながっています。

今回の展示では少し時間をさかのぼり、鎌倉のユリとその資料と一緒に今に続く旅を楽しんでいただければと思います。

- 期間：2024年 10月1日(火) — 14日(月) ※10月7日(月)は休館
- 会場：鎌倉市中央図書館 鎌倉市御成町 20-35
- 講演会：10月6日(日) 10:00 — 12:00

貿易商 Mr. Isaac Bunting

a field of lilies Ofuna



明治時代の横浜港



大正元年のユリカタログ
"Lilies of Japan"



玉縄ユリ栽培の中心
角田助太郎氏



主催：鎌倉玉縄ユリ・プロジェクト/コンガイ(鎌倉子育てガイド)/鎌倉市図書館